

# INTELLILINK セキュリティ診断サービス for Oracle

NTTデータ先端技術株式会社  
基盤ソリューション事業本部

# セキュリティチェックできていますか？

## 機密情報が格納されているデータベースそのものにセキュリティ対策が進んでいない実情

近年、**不正アクセス事件**、**データの漏洩事件**が多岐に渡って発生しています。ユーザや権限が適切に管理されておらず、容易にデータの持ち出しや変更が可能であるケースや、セキュリティの修正が適用されておらず、その脆弱性をついた攻撃を受けてデータが漏えいするケース等があります。

ネットワークレベルでの水際対策が中心で、データベースのセキュリティ対策はあまり進んでいないのが現状です。

アプリ、ネットワーク、OS、データベースの各層に対して適切な防御の仕組みを導入する、**多層防御の考えが必要**とされる時代において、**攻撃を受けた場合のリスクが最も高く、対処へのリソースの割り当てが最も不足しているのがデータベース**です。

マイナンバー法の施行や個人情報保護法の改訂、また直近では、内閣サイバーセキュリティセンター(NICS)の発行するセキュリティガイドライン(※)に記述が追加されるなど、データベースのセキュリティ対策がより一層求められています。

**データベースのセキュリティ対策は、見直しが喫緊に迫られているのです。**



# データベースのセキュリティ強化を求める各種ガイドライン

近年、各種セキュリティガイドラインに、データベースに関する指針が追加されています。

名称	セキュリティ強化への取り組み	対象
PCIDSS	2004年12月：PCI DSS制定 2013年11月：v3.0にバージョンアップ。 暗号化、アクセス制御、監査、マスキング、構成管理が記載	クレジットカードを 取り扱う企業
個人情報保護 (経済産業省)	2004年10月：経済産業分野のガイドライン策定 2008年2月：ガイドライン改定。暗号化の記載が追加。 2014年12月：ガイドライン改定。データベースへのアクセス制御、 管理者権限分割、パッチ管理が追加。	経済産業分野の事業者 及び、業界団体
サイバーセキュリティ 経営ガイドライン	2015年12月：ガイドライン 公開。多層防御と重要データ（データベース、 ファイル）への高度な暗号化、アクセス制御、監査が記載 2017年11月：攻撃の検知や復旧に関する仕組みの構築を求める記載の追加	企業の経営者 ITシステムを供給する企業と経営戦略上ITの利活用 が不可欠な企業
政府機関等の情報セキュ リティ対策のための統一基 準	2005年9月：政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準 公開 2016年8月：平成 28年度版公開。データベースの項目が新たに追加。 管理者権限分割、アクセス制御、監査・検知、暗号化が記載	政府機関 官公庁・独立行政法人等
改正個人情報 保護法	2015年9月：法律が成立・公布 2016年11月：ガイドラインが公開。保護すべき個人情報が明確化。 通則編にアクセス制御、暗号化、監査・検知、伏字化が記載。	個人情報を保持している事業者、 及び業界団体
改正割賦販売法	2017年12月：法律が成立・公布 クレジットカード情報を保持する場合に PCIDSS 対応を求める記載	クレジットカードを 取り扱う企業

# セキュリティ強化のためにすべきこと

## データベースのセキュリティ強化の第一歩

データベースのセキュリティ対策を実施する際に、**最初に取り掛かるべきは、現状の把握です。**

現状のデータベースの脆弱性をチェックすることで、対策を実施・強化すべき項目が分かります。脆弱性ありと判断された項目について、リスクの高いものから対策を実施することで Oracle Database のセキュリティを着実に強化していくことが可能です。

## 定期的な脆弱性評価によるデータベースの堅牢性維持

データベースの脆弱性のチェックは、定期的に行うことで、運用面に潜む脆弱性を可視化できる可能性があります。データベースシステムを運用していると、退職社員のユーザ ID 削除や、最新のパッチ適用が放置されていたりして、データベースの堅牢性が徐々に低下していきます。これらの問題は、ある時点でのチェックだけでは発見されない可能性があります。

データベースの脆弱性を定期的にチェックし、必要な対策を行う、状況によっては運用を見直すことで堅牢性の低下を防ぐことができます。

弊社の INTELLILINK セキュリティ診断サービス for Oracle は、ワンショットのみではなく定期的な診断にも対応しており、設定上の脆弱性・運用面に潜む脆弱性の両面からの可視化が可能です。





# INTELLILINK クラウドスターターパック for OCIが選ばれる理由


## ベンダの推奨設定に基づく診断結果を短期間で提示します

診断用のスクリプトを実行していただき、実行結果と設定ファイルを提供いただくだけで、対象の Oracle Database のセキュリティ状況について、**短期間で診断結果を提示**いたします。

また、オラクル社の推奨設定に基づき、診断結果と併せて、対策が推奨されるポイントをご提示いたします。

## こんな悩みをもつプロジェクトに最適です

	現状の Oracle Database 環境が、一般的なセキュリティ条件を満たしているかチェックしたい
	社内のセキュリティ要件を満たすために、第三者によるセキュリティチェックを必要としている
	更改を計画しており、次期システムのセキュリティ施策を検討するために、現行システムのセキュリティ診断を受けたい
	<u>クラウドに構築した Oracle Database のセキュリティ強度が心配だ。</u>



# INTELLILINK セキュリティ診断サービス for Oracle の範囲



Oracle Database の設定値について、オラクル社の推奨設定とのギャップを観点として、脆弱性を検出します。  
(OS、ネットワーク等、データベース以外は対象外です。)



Oracle Database の各種ディクショナリ等へアクセスし、各種設定情報を収集します。  
(実データにアクセスすることはありません。)



予め用意したチェック項目について、診断した結果をご報告します。  
診断結果は、基本的に結果レポート（弊社所定の書式）をメールで送付させていただきます。



データベースのバージョンは Oracle Database 10gR2 (10.2.0.4) 以降を対象としています。  
(それ以外のバージョンに対する診断をご要望の場合も、お問合せください。)



オンプレミス、クラウドを問わず、対応可能です。



検出された脆弱性に対する対処はこのサービスには含まれません。  
(弊社とオラクル保守契約を締結していただいている場合、QAはオラクル保守で対応させていただきます。)

**NTT DATA**